

ななむら

第55号

発行：照来地区公民館

責任者：館長

☎ 92-1738

令和2年1月1日現在

世帯数 536世帯

人口 1,519人

(男706人、女813人)

今年は『子年』 十二支の1番目!

照来地区の皆さま、昨年は照来地区公民館事業の推進に格別のご理解とご協力をいただき誠にありがとうございました。本年も多くの皆さまのお力をお借りしながら公民館事業を進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年は『子年（ねどし・ねずみどし）』です。皆さんご存知のように、『子年』は十二支の1番目です。

十二支はもともと植物が循環する様子を表しています。その1番目に『子』がきているように、『子年』を植物にたとえると新しい命が種子の中に芽生え始める時期で、新しい物事や運気のサイクルの始まる年となります。

照来地区公民館も新しい事業に挑戦したいと思いますが、「猫の額にある物を鼠がうかがう」ということわざにあるように、私自身の力の無さ考え、無謀なことはしないようにしたいと思います。



十二支の話 なぜねずみが一番?



「子、丑、寅・・・」でわかるように、十二支は子（ネズミ）から始まりますが、どうしてネズミが最初なのでしょう。

もともと十二支は動物とは無関係のもので、東西南北の方角に「子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥」と漢字をあてていましたが、十二支を覚えやすくするためにその字に動物をあてはめていたのです。その成立には様々な話がありますが、昔から語り継がれてきた民話を紹介します。

昔々ある暮れのこと。神様が動物たちにお触れを出しました。

「元日の朝、私のところへ出かけてきなさい。最初に到着したものから12番目のものまでを、1年交代でその年の大将にしてあげよう。」

動物たちは、我こそが1番になるぞとはりきっておりました。ところが、ネコは話を聞きもらしてしまい、ネズミにたずねました。するとネズミはわざと1日遅れの日付けを教えてやり、ネコはそれを真に受けて帰りました。



元日となり、足の遅いウシが誰よりも早く夜明け前に出発しました。すると牛小屋の天井でこれを見ていたネズミがこっそりとウシの背中に飛び乗りました。そんなことを知らないウシが神様の家へ行ってみると、まだ誰も来ておらず門も閉ったまま。我こそが1番だとウシは喜び、門が開くのを待っていました。

やがて朝がきて門が開いたとたん、ウシの背中からネズミが飛び降り、ネズミが1番となっていました。残念ながらウシは2番となり、それからトラ、ウサギ、タツ、ヘビ、ウマ、ヒツジ、サル、トリ、イヌ、イノシシの順で到着しました。1日遅れて出かけたネコは番外となり、それ以来ネズミを恨んで追いまわすようになったそうです。

こうして最初がネズミとなり、動物を当てはめた十二支が広く浸透していったのです。

～今年は何といっても「東京オリンピック・パラリンピック」の年～

みなさんにとって、今年の一の関心事は「東京オリンピック・パラリンピック」ではないでしょうか。私は、この「東京オリンピック・パラリンピック」の期間中、照来地区公民館に大きなスクリーンを設置して、パブリックビューイングではありませんが、みなさんと一緒になって観戦できないかなと思っています。



照来の子どもたちが大活躍！

1月19日（日）健康公園体育館において、『第14回新温泉町子ども会交流卓球大会』が開催されました。

個人戦には男女あわせて120人が参加し、団体戦では男子12チーム、女子7チームが熱戦を繰り広げました。

照来の子どもたちの結果は、次のとおりです。

（上位のみで敬称略）

【団体戦】	男子 第3位	「照来・多子・丹土」
	女子 準優勝	「飯野ガールズ」
【個人戦】	男子4年生以下	準優勝 田中隆惺（飯野）
	女子4年生以下	優勝 田中聖菜（飯野）
	〃	準優勝 山本一楓（飯野）
	男子5年生	準優勝 山下奏多（多子）
	〃	第3位 西村優大（多子）
	女子6年生	第3位 西坂颯恵（丹土）



お知らせコーナー

照来地区卓球大会のお知らせ

◆日 時 令和2年2月11日（火）

午前9時～

◆場 所 健康公園体育館

◆競技部門 団体戦のみ

地区単位で構成し、5人以上登録

◆参加費 無料

◆申し込み 2月4日（火）まで

〔申し込み先〕

飯野 村尾 国治

桐岡 長谷阪仁志

丹土 中井 治

◆主催 スポーツクラブ21照来

＜新温泉町子ども会卓球大会を観戦して＞

まず、驚いたのはレベルの高さです。卓球人気もあってなのかもしれませんが、フォームが非常に良い選手がたくさんいました。

（我々の頃は、学校の廊下で下敷きを使って卓球ではなくピンポンをしていました。）

それから、何と言っても男子の4年生以下で準優勝した「田中隆惺」君です。聞けばまだ小学1年生だそうです。決勝ではフルセットの末惜しくも敗れましたが、今後が楽しみです。



照来歴史⑪ 塩山 「出雲岩」

塩山から前村に越える道路脇に大きな岩が見えてきます。今は、岩の周囲に雑木が生えており見にくいですが、これが、昔から語り継がれてきた伝説の「出雲岩」です。

昔、大国主命が賊に追われて、馬に乗って塩山の「出雲岩」というところまで逃げてこられた。

そこには、高さ十メートル、横幅七メートルもの「出雲岩」と呼ばれる大きな岩があって、そこに休んでいたが、賊がどんどん押し寄せて来たので、馬に乗った命は、どこかよいかくれ場所はないかとあたりを見回すと、向こうに大きな森があった。

これは、しめた！と、命は「出雲岩」から馬で一つ跳び。

着いたところが、飯野の「さるが滝」というところで、そこにも岩があって、その岩にくらをかけて休んだそうだ。それで、その岩を「くらかけ岩」と呼ぶ。

今でも、「出雲岩」と「くらかけ岩」に、馬のひずめの跡が残っている。

（「但馬・温泉町の民話と伝説」より）

